◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 若井 睦巳

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> 「せとまちトーク」の取組みについて 	<ul style="list-style-type: none"> 議会の広報広聴活動について 議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<ul style="list-style-type: none"> 広報広聴協議会を議員全員(26名)で組織されていることに、先ず驚いた。その下部組織である広報部会12名、広聴部会が12名で組織されている。 「せとまちトーク」は市民からの意見を政策資源としていくことを目指して、令和元年から実施されている。常任委員会での研究課題をテーマとして、市民との意見交換をする場として、定期的実施している。また、市民からの多様な意見を幅広く聴くため、テーマを設けず意見交換をするグループを設けることもあるとのこと。 単に要望を聴く場ということではなく、政策資源を得る場として活用されている。 南丹市では、「出前でおしゃべり青空議会」や「議会報告会」で、市民の皆さんからの意見などを聴かせてもらっている。それらを市民の声として、まだ十分に生かし切れていないという現実がある。今回の視察を受け、広報広聴委員会内でしっかりと議論していきたいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいトーク」と名付けた報告会&意見交換会を開催されている。 2月に実施される議会報告会では、採決前の新年度予算について市民と意見交換をし、市民の意見を予算審議に反映させるということをしている。画期的な取組であると感じる。市民にとっても、予算審議に参加しているという思いになり、議会に対する関心も増えるのではないかと考える。 市民からの意見については、全てホームページに掲載している。 「議会だより」の編集に関しては、我々のやり方と大きく異なるところはなかった。 「議会広報クリニック」などの研修を実施し、わかりやすく、読みやすい工夫を日々続けておられる。 他市の取組については、刺激になること、参考になることが多い。今後の広報広聴委員会の活動にどのように役立てていくか、しっかりと議論していきたい。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 河野 啓介

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>・広報広聴協議会（平成28年設置） 理事会 10名 会長(副議長) 副会長(部会長)2名 副部長2名 議会運営委員会正副委員長(2名) 議会活性化推進特別委員会正副委員長2名 議長部会 広報部会 12名 広聴部会 12名</p> <p>・議会報告会が「一方通行」になってしまったことから、懇談会形式として市内8箇所で開催したが、同じ参加者が複数の会場で発言をすること、発言が多岐に渡りまとめきれないこと、加えてコロナの影響などから一旦中断した。</p> <p>・ノーテーマ、テーマを決めたグループ討議の併用で多様な意見を聞き取る方策を模索している。</p> <p>・参加する議員の対話能力を向上させる取り組みとして、議員がファシリテーター講習を受講している。</p> <p>「ファシリテーター」とは、会議や商談などで中立的な立場に立った上で会議中に発せられた意見をまとめ、より良い結論に導く役割を担う人。意見の対立や摩擦</p>	<p>○議会広報広聴活動について</p> <p>「ふれあいトーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉市議会報告会、及び岩倉市議会意見交換会の総称。 ・年2回開催(2月、10月) ・出された意見の集約は、協議会で協議するとともに必要に応じて、議長を通じて、市長等に文書等により提出する。 <p>「岩倉市議会サポーター」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会が市民から議会運営に関する意見を広く聞き、議会運営の参考にすることで、市議会の円滑かつ民主的な運営促進を目的としている。 ・議長が依頼すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 議会を傍聴し運営に関する意見を出す 2. 議会報、議会ホームページに関する意見を出す 3. 議会運営に関する調査事項への回答 4. 議員との意見交換会に参加 <ul style="list-style-type: none"> ・任期は1年。再任可能。謝礼あり(三千円相当のQUOカード)。 ・定員は100人以内。年代別に無作為に抽出した500人に募集し、現在は30名ほど。

を解消し、チームの仕事が停滞しないように次のアクションを提示することが仕事で、メンバーからの信頼やロジカルな考え方がもとめられる。

- 出された意見に対する説明を YouTube 動画で作成し、発信している。
- 議会の企画として参加を呼びかけることが責任につながるので、参加者の発言に対しては誠実に対応することが重要。そこが遅れると単なる「パフォーマンス」として受け取られることもある。

感想

サポーターの存在が、定期的に繰り返して議会活動のチェックに作用していることは大切。一方で、日常の議員活動の中でも寄せられている声があり、その集約についても方法の模索が必要かもしれない。

○議会だよりの編集について

- 愛知県自治体広報研究会（正式名称不明）への参加し受講する。
「広報クリニック」により紙面の質向上を心がける。

感想として

- 議会広報にもインターネットの活用が広がっている。議会ホームページをより見やすくアクセスしやすい形にしていることも大切。動画やラジオなどのあらたな発信形態も研究が必要。
- 「議会用語」「行政用語」など、住民の方には耳慣れない、難解なことばをなるべくつかわないようにすることと、文字数の制限との兼ね合いがむずかしい。
- 紙面構成など、客観的な視点によるチェックが必要で、広く意見を聞くためのシステム構築がもとめられる。

◇ 行政視察報告書 ◇

〈提出者氏名〉 塩貝 孝之

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<ul style="list-style-type: none"> ・議員全員参加の広報広聴協議会を設置し、その枠組みの中に広報部会と広聴部会が置かれている。 ・やさしい感じの、告知チラシを作成し各所に配布するとともに、議員も街頭等で手配りされている。 ・常任委員会ごとにテーマを検討し、意見交換会のテーマに設定されている。 ・政策検討会議（現在休止中）を立ち上げ、市民との意見交換会を起点とした政策サイクルを実施されている。 ・ケーブルテレビやラジオまた YouTube 等のSNSを活用した積極的な議会情報の発信をされている。 <p>様々な情報提供をいただいたり、情報交換をさせていただきましたが、特に上記の項目において、本市でもすぐに取り組めるもの、検討は必要だが取組み可能なものとして、委員会、部会で議論を進めるべきであると考えます。</p>	<p>岩倉市の人口は約48000人ですが、議員定数は15人と、本市より少ない議会でありました。そんな中でも、議会サポーター制度の導入や常任委員会の録画配信、また議会報告会を2月に開催し、議会の予算審議前に市民の声を聞く機会を設けるなど、非常に先進的な取組みをいち早く実施されておりました。議会報告会や意見交換会でいただいた意見は議会基本条例推進協議会で協議され全員で共有し、取り入れられるものはすぐに取り入れるという姿勢の元、個人の一般質問等でも意見を活用されていました。本市では、出前でおしゃべり青空議会等で多くの意見をいただきますが、意見の有効活用についてのルール整備が追いついていない部分があります。今回の視察において感じたのは、議会一丸となって多様な意見を取り入れていくという姿勢は非常に大切であり、岩倉市の取組み方は大いに参考になりました。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 吉田 尋子

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>瀬戸市は市民と議会の意見交換会である「せとまちトーク」を令和元年から実施されています。</p> <p>市民からの意見を政策資源としていくことを目指し、常任委員会での研究課題をテーマにし、市民の方に意見交換をしていただくことで、より深い意見を聴取することができているとのことです。</p> <p>ただ、多様な意見も聴くべきとのことから、テーマを設けず意見交換をするグループも設けておられます。</p> <p>意見を政策資源とするために、政策検討会議を行い、課題を分析、取捨選択し、優先順位をつけ、委員会に送付し、委員会では調査研究を行い、また検討会議に報告するという、サイクルを作り、最後まで徹底的に生かしていく点も貴重でした。意見交換会は要望だけを聴く場ではなく、政策資源を得る場、共に夢を語る場であるとの広報部副会長の言葉にその思いを感じたところです。せとまちトークの告知は、議会だよりに、議会ホームページだけでなく、SNS、TV、ラジオ、チラシと多様でした。</p> <p>本市の議会報告会でも広く市民のご意見を聴き、次の一歩に進められるよう取り組んでいかなければと思いました。</p>	<p>岩倉市では平成30年度から「岩倉市議会サポーター」を設置し、市民から、議会の運営に対する意見を広くいただき、市議会の円滑かつ民主的な運営促進を目的にサポーターの応募を行なっておられます。</p> <p>住民基本台帳から18歳以上85歳以下の市民を6段階に分け、年代ごとに無作為に人口割合から500人を抽出し、個人宛に応募のお願いを送付。</p> <p>実際には20人前後のサポーターが決まり</p> <ol style="list-style-type: none"> ①市議会や委員会を傍聴し会議の運営について意見や提言を提出 ②議会だよりにや議会ホームページへの意見の提出 ③議員との意見交換会への出席 ④議長からお願いするアンケートへの回答に取り組みます。 <p>又、広く意見を聴くため、「ふれあいトーク」と名付けた報告会&意見交換会を開いておられます。</p> <p>その中でも2月に行われた「きてちょ～議会報告会」では、採決前の新年度予算について議論し、市民の意見を議員の予算審査に反映するという、画期的なものです。新年度予算事業についてはホームページから見ることができ、投稿フォームや郵送、FAXでも意見</p>

		<p>を送ることができます。</p> <p>さまざまな機会を捉え、市民の皆さんの声を生かしていこうとする姿勢に感心するとともに、何か一つでも南丹市実現していきたいです。</p>
--	--	--

◇ 行政視察報告書 ◇

〈提出者氏名〉 下間 康広

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>瀬戸市は面積111.4Km²、人口が12万7千人。瀬戸物が有名な市である。</p> <p>本市との大きな違いは、広報広聴協議会という大きなくくりがあり、その中で、理事会・広報部会・広聴部会に分かれて活動されている事だと感じた。メリットとしては、全員が参加する協議会があるおかげで企画立案に対し広報・広聴部会との連携がとれやすいのではと感じました。そういった体制がある事によって年2回開催されている「せとまちトーク」で市民からいただいたご意見を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広聴部会（開催立案・意見集約） ・政策検討会（優先順位付け・割り振り） ・常任委員会（調査研究・議員間討議） ・政策検討委員会（協議結果の共有） ・広聴部会へと <p>いった流れで、議会全体として受け止めをされており、各常任委員会からの意見書や政策提言に反映されており、非常に勉強になりました。</p> <p>本市でも、いただいた意見が反映される活動・仕組みが必要だと強く感じた視察となりました。</p>	<p>岩倉市は面積10.4Km²、人口4万7千人の市である。議員定数15名でそのうち8名が議会広報委員会に所属され活動をされている。</p> <p>特徴としては、「市議会サポーター制度」を導入され、民意の集約に努められていることだと思いました。市議会サポーター制度とは、無作為に選んだ500人の市民に案内を送り、意向があればサポーター登録をしてもらい市政や議会に対して、意見をいただくという制度。毎定例会翌月にはサポーターとの意見交換会を開催し、市民の声の集約に努められていた。また、サポーター制度とは別に予算・決算審議前に行う「議会報告会」の開催や、市民の方や各種団体との「ふれあいトーク」などを通じて、積極的に広聴活動に取り組みされていたのはとても印象的でした。</p> <p>また、本会議の中でも「市民の声として…」と紹介されることもあるらしく、まさに市民の声が伝わる活動だと思いました。</p> <p>本市議会でも、声が伝わり届くような広報広聴の取組みになるよう参考にしていきたいと感じました。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 樋口 浩之

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>瀬戸市の特徴的な取組みは「せとまちトーク」という市民と議会との意見交換会の開催である。</p> <p>一人でも多くの市民参加を実現するため、告知方法も工夫されており、参加しやすくカジュアルにデザインされた告知のチラシを議員自ら街頭配布することで、少しずつ市民参加を増やされてきたとのことであった。</p> <p>また特筆すべきは、市民との対話から得られた情報を政策サイクルとして、議会内で段階的に検討し、また市民にフィードバックし、また検討するといったサイクルが構築されていることである。</p> <p>このような取組みも開始当初は、市民から出てくる意見も要望ばかりで、建設的な議論までは至らなかったとのことであるが、全ての議員がファシリテーションのトレーニングを受けるなどの取組みで「他人の意見を尊重する」「全員から意見を徴収する」「前向きな発言」等を話し合いの最初に説明することで建設的な話し合いの場を持つことができるようになってきたとのことであった。</p> <p>市民との対話だけにとどまらず、職員との対話、また議員同士の対話においても「ファシリテーション」の技術は重要であると考え、本市議会においても取り入れる必要のあるも</p>	<p>岩倉市の特徴はコミュニケーションを大切にしているとのことで、今回の視察においても、ほぼ議員全員が参加してくださり、議員同士お互いの自己紹介からスタートした。</p> <p>このように瀬戸市では市内外に対して、コミュニケーションを重要視されており、市民とのコミュニケーションにおいては「議会サポーター制度」という珍しい広報広聴の取組みについて説明をいただいた。この制度は無作為に抽出された500人に議会サポーター参加の依頼を送付し、その中から毎年20人前後の市民にサポーターとして議会に参加してもらうというものである。「議会サポーター」の主な役割は議会の傍聴からはじまり、議員との意見交換やアンケートへの回答などがある。</p> <p>また「ふれあいトーク」という取組みにおいては、「小学6年生」「若者」「外国人ママ」「商工会」など、対象者を絞り込むことで、より深く話し合える手法を取り入れているとのことであった。対象者を属性別に絞って話し合う取組みは、本市においても有効的であると考え、是非取り入れていきたい。</p> <p>また議会において予算が議論される3月定例会の直前である2月に、あえて議会報告会を</p>

	<p>のであり、話し合いの円滑化を進めるファシリテーション研修は早急に実現させたい取り組みである。</p>	<p>開催するという取り組みは市民にとって非常に関心をよせやすく開かれた議会の実現を体現するような取り組みであると感じた。 また、わかりやすく、よみやすくをテーマにした広報活動や議会子ども向けWebページの開設なども、是非取り入れたい取り組みである。</p>
--	---	---

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 堤 博明

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>広報広聴委員会として市民の意見や要望を聞く事で、住みよいまちづくりの実現を目指し市政に反映できるよう、さまざまな取組みを行っている愛知県瀬戸市へ視察研修に伺い、せとまちトークについて説明を受けました。10年前から議会報告会をされていましたが、当初は報告のみで市民の意見を聞くことはなかったようで、反響が悪く改善されてきました。瀬戸市では全議員が参加した広報広聴委員会を構成されております。せとまちトークは年2回の5月・11月に開催されており、多くの方に参加いただくための工夫をされておりました。</p> <p>内容はテーマごとの課題について意見交換を行うグループとフリートークのグループで構成し若者や子育て世代の参加もあり、幅広い世代の意見を聞いておられたことが印象的でした。特にテーマを決めたグループは課題解決やアイデアなどを深掘りし、充実した意見交換になったようです。</p> <p>結果として成功例だけでなく失敗例も教えていただき大変参考になりました。本市でも情報共有した内容を精査し市民の意見を今以上に反映できるよう取り組んでまいります。</p>	<p>岩倉市議会では市議会サポーター制度を設けており、サポーター制度は無作為に抽出した方に案内をして応募された方が採用され、基本的に「会議を傍聴し当該会議の運営に関する意見書を提出」「議会だよりに及び市議会ホームページに関する意見書を文書で提出」「議長が依頼した市議会の運営に関する調査事項に回答」「意見交換会に参加」など市民が自主的に可能な限り行うもので強制はありません。私的には市議会に一般の方が参加し多様な意見をいただくことで、市民の意見が反映される市政運営になると感じました。</p> <p>また、ふれあいトークについては若者・外国人・商工会・農業・PTAなどの分野ごとに意見交換会を開催されテーマを絞ることにより充実した意見交換をされています。フリートークについても進行役の調整で皆さんの意見を集約され、出来るだけその場で返答されており、迅速な対応だと感じました。</p> <p>議会だよりの編集については、議会だよりが見やすく読みやすい工夫もされ多くの市民に興味を持っていただく努力が感じられました。意見の中で子供でも読めるページが無いとのことで、子供でも読めるように言葉やイラストを多く使い、少しでも興味を持ってもらう努力が印象的でした。</p>

		<p>前日に続き多くの事を学ばせていただきました。人口や面積的な違いはありますが、本市でも市民の方が参加しやすく開かれた議会運営に努めてまいりたいと思います。</p>
--	--	---

◇ 行政視察報告書 ◇

〈提出者氏名〉 平田 聖治

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>●瀬戸市議会広報広聴協議会(平成28年5月設置) ■広報広聴協議会理事会(メンバー:10名) 会長(副議長)、副会長(部会長)(2名) 副副会長(2名)、議会運営委員会正副(2名) 議会活性化推進特別委員会正副(2名)、議長 〈広報部会〉 会員数12名、部会長1名(副会長兼務) 副副会長1名 所掌事務 ①議会だよりの編集に関する事項 ②議会ホームページに関する事項 ③その他議会の広報に関する事項 〈広聴部会〉 会員数12名、部会長1名(副会長兼務) 副副会長1名 所掌事務 ①議会報告会と市民との意見交換会に関する事項 ②傍聴者アンケートに関する事項 ③その他議会の広聴に関する事項 ●市民との意見交換会を起点とした政策サイクル ①市民との意見交換会(8カ所で開催) 〈広聴部会〉 ・意見交換会の開催 ・提出された意見等の集約</p>	<p>●岩倉市議会サポーター制度について 平成29年、市町村アカデミーの議員研修で埼玉県戸田市議会の市議会モニター制度を知り、その後、長野県飯綱町議会の議会だよりのモニター制度や政策サポーター制度の研究を経て、平成30年に「岩倉市議会サポーター制度」として開始。 ◆制度概要 平成30年度に「岩倉市議会サポーター」を設置し、議会運営に関する要望、提言その他の意見を広く聴取し、議会運営に反映させ、議会の民主的な運営を推進している。 ○サポーターの任期および募集方法 サポーターの任期は、8月1日から翌年7月31日までの1年間で、再任を可としている。募集は無作為抽出および公募による方法。 ○サポーターの現時点の主な役割 サポーターの現在の主な活動は、定例会の翌月に開催するサポーターと議員との意見交換会に出席いただいている。そこで、傍聴、録画配信、市議会だよりの見聞などを通して見た議会活動について意見をいただくほか、フリートークを行っている。また、「サポーターの声」という制度により、議会に対する率直な意見や感想を随時受け付けている。提出した</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・政策検討会議への意見等の送付 <p>② <政策検討会議> (入口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意見の取舍選択、優先順位付け ・各常任委員会への割り振り ・必要に応じ全員協議会終了後等開催 ・座長は議長 全議員で協議 <p>③ <常任委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の調査研究事項との優先順位付け ・調査事項の研究 ・予算、決算審査 ・議員間討議 (自由討議) ・政策提言・条例制定 ・政策検討会議への報告 (経過・結果) <p><分野別意見交換会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会自らが設定した課題や政策検討会議から割り振られた課題等について調査研究を行うに当たり、必要に応じその課題に関係する各種団体等を行う <p>④ <政策検討会議> (出口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各常任委員会の経過報告・協議結果を共有 ・全議員で意見交換 ・広聴部会への報告 <p>⑤ <広報部会>へ フィードバック</p> <p>⑥ 市民との意見交換会 (8カ所で開催)</p> <p>●せとまちトークにおける想定していた政策サイクル (オリジナル)</p> <p>① せとまちトーク (5月・11月) 市政に対するさまざまな意見</p> <p>② [政策検討会議]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取舍選択 ・優先順位付け ・常任委員会へ送付 <p>③ [常任委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 <p>④ 調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政視察 ・各種団体との意見交換等 <p>⑤ 政策提言等</p> <p>⑥ [政策検討会議] 進捗状況・結果報告の共有</p> <p>※市民と議会の意見交換会から条例制定に結びついた事例があった。 (行政視察資料より)</p>	<p>サポーターが「サポーターの声」に対して回答を求めることもできる。</p> <p>「サポーターの声」は定例会ごとに区切り、回答が求められている意見については回答を作成し、意見交換会の場でサポーター全体に提示している。その後、ホームページ上で公表している。</p> <p>●市議会だより編集方針</p> <p>◆基本方針</p> <p>定例会および臨時会(以下「定例会等」という。)に提出された議案、代表質問、一般質問、意見書、決議等を主体に構成し、審議の結果だけでなく、経過および質疑内容に触れ、特に市民に関係の深いものを重点的に取り上げるように配慮する。また、写真、注釈等を用いて市民に分かりやすい構成とする。 (行政視察資料より)</p> <p><所感></p> <p>岩倉市では、広く市民の意見を聴くために「ふれあいトーク」の開催や「岩倉市議会サポーター制度」を活用して、サポーターを設置している。本市においてもいろいろな意見はあると思いますが、検討することも必要ではないでしょうか。</p>
--	---	---

◇ 行政視察報告書 ◇

〈提出者氏名〉 山下 秋 則

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>1. はじめに 瀬戸市(人口58千人、面積111km²)は、名古屋市市の北東約20kmに位置し、名古屋市のベッドタウン。古くから焼き物のまちとして栄え、日本の「古窯」の一つ「瀬戸焼」(日本遺産)で有名。 瀬戸市議会では、議会基本条例に基づき、「せとまちトーク」として、市民との意見交換会を開催し、出された意見等を議会の政策形成等に繋げていく取組みを活発に実施されていることから、南丹市議会の広聴活動の充実と意見を施策に繋げていく仕組みの手掛かりを得るため視察した。</p> <p>2. 取組みの現状 市民との意見交換会である「せとまちトーク」は、瀬戸市議会基本条例に基づき実施されているもので、議員が市内の各地域に出向き、議会活動の状況を報告するとともに、議会や市政に対する市民からの意見を聴取することにより、市長等の執行機関に対する議会の監視機能、政策形成機能の向上を目的に実施されている。 意見交換会は、原則5月・11月の年2回開催。全議員(26人)を4班に分けて市内8地区で実施。開催の周知は、市や議会の広</p>	<p>1. はじめに 岩倉市(人口47千人、面積10km²)愛知県の北西部に位置し、名古屋市まで私鉄の特急で10分程度というベッドタウン。 岩倉市議会では、全国的に余り例のない「議会サポーター制度」を設け、議会への市民参加に取り組んでいるほか、市民との意見交換会「議会ふれあいトーク」を実施するなど、議会基本条例に基づく議会機能の活発化に取り組まれていることから、南丹市議会の広聴活動の充実に向けた手掛かりを得るため視察した。</p> <p>2. 取組みの現状 「議会サポーター制度」は、岩倉市議会基本条例に基づき、「市民からの要望、提言その他の意見を広く聴取し、議会運営に反映させる」ことを目的に平成30年に設けられた制度。18歳以上の市民から年代別に無作為に選ばれた市民や公募による市民で構成され、定員は100名以内となっているが、実数は20名程度。 サポーターの役割は、本会議や常任委員会等を傍聴して、意見や提言をペーパーで提出することや、議員との意見交換会に出席して、意見や感想を述べることなど。任期は1年で、</p>

報紙、市のホームページや議会のフェイスブックなどに掲載するほか、自治会等を通じて案内している。

瀬戸市議会では、意見交換会で出されたさまざまな意見等を議会の政策形成に生かすために、次のような政策サイクルを運用している。

まず、出された意見等は、広聴部会で集約され、議員全員からなる「政策検討会議」に諮られ、意見の取捨選択、優先順位付けなどを行い、所管の常任委員会に割り振られる。

その後は、各常任委員会での扱いとなり、所管の他の調査研究事項との優先順位付けなどの整理を行い、必要に応じて調査・研究や委員会での審査などを実施。委員会としてまとまる場合は政策提言などに繋げていく。

各常任委員会での対応後は、再度、政策検討会議を開き、各委員会の報告・協議結果を全議員で共有し、広聴部会にその結果を報告することとしている。

最後は、広聴部会が、以後の意見交換会で、政策検討会議でのまとめを報告する仕組みで、このサイクルを繰り返すことで、議会の機能の一層の発揮・向上を目指している。この政策サイクルによって、全会一致で「自転車の活用推進に関する条例」の制定を実現したとのことである。

しかしながら課題もあるとのこと、議員全員が参加して意見の取捨選択、優先順位付けを行う政策検討会議を開いても何も意見が出ないなど機能していないことから、現在、特別委員会で、政策検討会議の在り方やサイクルの一部見直しなどを検討しているとのことである。

広聴に基づく政策形成以外の取り組みとしては、議員全員からなる「広報広聴協議会」を設置し、広報部会と広聴部会に分かれて、それぞれ活動していることである。また、広報広聴活動の全体の企画立案や両部会の調整などを行う広報広聴協議会理事会を設け、協議会の活動を推進する役割を担っている。

3. まとめ

瀬戸市議会の広報広聴活動は、広報広聴の

希望により継続される市民もある。

サポーターから出された意見等は、必要に応じて常任委員会に回され、当該委員会で検討。検討結果は、サポーターに報告され、市議会だよりや議会ホームページを通じて公表される仕組みとなっている。また、意見、提言等で、取り入れられるものは施策として実現しているとのことであった。

市民との意見交換会である「議会ふれあいトーク」は、決算報告の時期である10月と予算に向けての2月の年2回実施されている。ふれあいトークで出された意見等は、議会基本条例推進協議会（議員全員からなる協議会）で協議され、必要に応じて議長を通じて市長等に文書等で提出されたり、議員が個々に一般質問で取り上げたりして、出された意見等を議会で生かしているとのことであった。

また、予算を審議する3月議会に向けて2月に実施するふれあいトークは、新年度予算における新規や主要事業の一部を事前に公表し、市民から意見を募集。寄せられた意見等を踏まえ、ふれあいトークで意見交換するとともに、その後、予算を審査する「財務常任委員会」（南丹市議会の予算特別委員会に該当するもの）で各議員が質問に生かすこととしている。珍しい取り組みである。

3. まとめ

議会の広聴機能の充実を更に進め、議会を市民により身近なものとするために、岩倉市の「議会サポーター制度」は、有用で検討に値する取り組みと考えるが、南丹市議会での導入には、その基盤として、広聴の実施体制の整備・充実にまず取り組むことが必要と考える。

また、「議会サポーター制度」や「議会ふれあいトーク」は、議会基本条例にしっかりと位置づけられている取り組みである。これは、岩倉市の前日に視察した瀬戸市も同様であった。南丹市議会においては、議会基本条例の検証が課題となっており、その際の重要な課題として取り組むことが必要と考える。

充実として、議会基本条例に明確に位置づけられており、議員全員が、広報又は広聴活動に関わる仕組みとなっていることが、南丹市議会の広報広聴の取り組みと大きく異なる点である。

南丹市議会の場合は、議会基本条例で、市民との情報共有や議会活動の報告などに取り組むことなどは規定されているものの、広報広聴活動としての明確な位置づけはない。

また、南丹市議会の広報広聴活動を担う「広報広聴委員会」（委員10人）は、瀬戸市議会と同様に自治法第100条の第12項を根拠に議会会議規則で定められているものの、全議員で構成するものではなく、さらに、広聴部会は2人で企画運営を担っている状況である。

さらには、ここ数年、南丹市議会では、「出前でおしゃべり青空議会」や「学生との意見交換会」「南丹未来会議」など、広聴活動に力を入れているが、そこで頂いた市民の意見・要望をどの場でどのように扱っていくのか、制度としての請願や要望・陳情との扱いの関係をどう整理するのか、さらには、政策提言等に結び付けていくには、どのようにすればいいのかーなどが課題となっている。

今回、瀬戸市議会の議会基本条例に基づく広報広聴活動の位置づけや、広聴活動を政策形成に繋げていく仕組み、全議員体制の広報広聴活動などは、大いに参考となり、生かしていかなければならないと実感した。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 小中 昭

委員会名	広報広聴委員会	
委員名	[委員長] 若井 睦巳	[副委員長] 河野 啓介
	[副委員長] 塩貝 孝之	[委員] 吉田 尋子
	[委員] 下間 康広	[委員] 樋口 浩之
	[委員] 堤 博明	[委員] 平田 聖治
	[委員] 山下 秋則	[委員] 小中 昭
視察先	愛知県瀬戸市	愛知県岩倉市
視察日	令和6年11月13日(水)	令和6年11月14日(木)
視察時間	午後2時00分～午後3時30分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・「せとまちトーク」の取組みについて	・議会の広報広聴活動について ・議会だよりの編集について
行政視察を終えて	<p>*「せとまちトーク」の取組みは、令和元年11月から実施されている。8地区で開催され154名の参加で、ワークショップ形式で市民からの意見聴取をされた。基本的には5月11月と年2回開催されている。令和2年はコロナ禍で中止されている。</p> <p>*せとまちトークにおける政策サイクルは、せとまちトークで出た市政に対する様々な意見は【政策検討会議】で取舍選択し優先順位をつけ常任委員会に送られる。【常任委員会】では課題を設定し、行政視察や各種団体との意見交換などを実施し政策提言などする。その政策提言などを再度【政策検討会議】で進捗状況や結果報告を共有し政策サイクルされている。</p> <p>*せとまちトークで出た意見から、条例制定に結び付いた事例もある。</p> <p>◎瀬戸市議会では広報広聴協議会は全議員で構成。その下に広報部会・広聴部会があり、広報広聴協議会の会長と議長は部会には加わっていない。</p> <p>本市においても広聴部会の人数を増やすべきでは。</p>	<p>*平成30年から、市民の皆様から議会運営に対する意見を広くいただき、議会の円滑かつ民主的な運営促進を目的に「岩倉市議会サポーター」を設置されている。サポーターは18歳以上の市民を年代別に無作為で500人に応募をお願いし1年の任期で委嘱されている。</p> <p>ふれあいトーク(報告会・意見交換会)は、若者・外国人ママ・農業委員会・PTA・子育てママ・商工会等と意見交換会を実施されている。</p> <p>報告会は10月の決算と2月の予算時の年2回実施。特筆すべきは、2月の予算前の実施で出た市民からの意見は、一般質問で市民からの意見として質問されている。</p> <p>*議会だよりの編集は本市と大きく変わりはないが、県の主催の広報クリニックには全委員が参加されている。</p>